

共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【虚構からの訣別を図るべき時期に到達したJR東日本！ シリーズ2】 日一日とメッキが剥がれていく「JRの妖怪」その

「JRの妖怪」と称される松崎氏のこれまでの言動や記述を注意してチェックすれば同氏の“本性”や“品性”を感知することは容易である。

…常に妨害の歴史だ。何で妨害されるのか。私らはたぶん正しいからだと思う。世界に冠たる労働運動をやっているからだと思う。私はそう思っている。…講演で言いましたけど、病気や怪我では死なないと。殺しに来いよ、俺を。殺しに来いよ。その時に葬送の曲は「運命」でやってもらいたい。

最初から決めている。ロマンティズムです、私の。…俺は東京支社なんてチンピラを問題にしていない。松田出て来い、大塚出て来い、俺に文句があるなら堂々と来い。暗殺者を俺に送ってくるなら送って来い。俺はそう思っている。堂々と闘い抜く。だから、東京支社なんてチンピラ問題でない。…命なんかとっくの昔に捨てているから、いいじゃないの。かかって来いよ。…なめんじゃないよ。労働者の魂はヒューマニズムなんだよ。階級として組織化された労働者の魂を支配者が踏みにじろうとするんだったら、命をかけて闘おうじゃないか。だから、こんな状態でいったら、来年の株主総会グチャグチャにするからね。俺が株主総会で発言したときに、皆さん、ヤジりますか。人を愛する思いというのはそんな中途半端じゃないですよ。闘った仲間の命が奪われて、俺と一緒に頑張ってくれた仲間をないがしろにするんだったら、かかってこいよ。いつでも受けてたつ。世界に冠たる労働組合なら。それをないがしろにするんだったら。東京支社？ そんなもんじゃないだろう。本社だろう。だから昨日、「大塚に言っておけ」というのはそういう意味だよ。かかって来いよ、俺に。俺はもともと命を捨てているんだから。…でもたぶん俺は順法闘争・ストライキに決起せよと言ったら、俺は従ってくれると信じている。従ってくれなかったら、そこで俺は割腹自殺する。短刀を持ってますからね。富本にもらった。

私は国鉄改革のときに、あれだけの苦勞をかけた仲間たちを、苦勞をかけた俺は死ぬと思っていたんです。そのための短刀はちゃんと持っていました。いつでも。武士道なんてものは信じないけれども、ヒューマニズムというのは信じている。人が人を生かすために人が死ぬ。いいじゃないですか。ベートーベンの「運命」じゃないけれども、でもやっぱり歌えと言われれば第九です。歡喜の歌です(02・7・10 JR東労組本部役員慰労会・松崎講演の抜粋<嶋田邦彦編著『虚構からの訣別 - 心貧しき者たちへの挽歌 - 』>より)。

<「いやはや」の一語しか出ない。東京支社のチンピラとは、支社長や総務部長のことであろうし、「…出て来い」の“松田”はJR東日本会長、“大塚”は同社長である。「…来年の株主総会グチャグチャ…」は一種の恫喝であり、松崎氏に短刀をくれたような「富本」なる人物は、昭和45年8月14日付新聞各紙が「法大構内 教育大生殺人事件」「革マル派が報復襲撃」「手足しばってリンチ 椅子に逆さ吊り」などとの見出しで大きく報じた内ゲバ事件関連で逮捕された経歴のある、当時日大生で、現JR東労組本部役員である。そして何よりも資料掲載書物の編著者は、松崎氏の腹心の部下、一時は後継者の大本命と目されていた「嶋田邦彦」その人である。>

《国鉄改革の完成に向けて(宗形明著)183ページ~185ページより抜粋》